

第三十五回句会 俳句

【高点句】

- ☆写経の間一字一行秋涼し 一馬
☆還らざる兄何処にぞ終戦日 一馬
☆踊り果ていつしか月も山の端へ 眞澄
☆みちのくの踊子なべて色白き 明美
☆残暑背に負いかね足の重さかな 千恵

【各自一句】

- ・二〇一七の雲取山や登山の日 眞澄
・言葉失せ枝豆の粒数へをり 千恵
・撥捌ききびきび踊しなやかに 静
・隠れ居る山尾なぞらん霧の道 青蛙
・盆踊そつと見守る六地藏 一馬
・竿燈の風を操り操られ 明美
・茹でたての枝豆に手が四方から 安津子
・枝豆の産毛にからむ塩風味 童心
・踊子の足らぬたらぬと三丁目 きさ
・手の先に君のうなじを追う踊 莫院
・雷走る眼前の木をつんざきて 茂

*以上、33句(3句ずつ11名)より、選句は12名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句(今回は、第3位が同点で3句)

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による(得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載)